



筑波大前期試験で12名が合格！

3月7日(月)に前期試験の合格発表が行われ、現役で12名が合格しました。推薦で合格した6名を合わせてまずは18名が筑波大に進学します。そして、明日(12日)は後期試験が実施され、先輩たちが受験に臨みます。3月9日(水)に行われた後期試験出陣式に出席した先輩たちの最後まで粘る姿勢には感動を覚えました。1, 2年生のみなさんにぜひ引き継いでもらいたいと思います。なお、合格した学群・学類は以下の通りです。

学群	学類	推薦	前期	計
人文・文化	人文		1	1
	比較文化	1	3	4
	日本語・日本文化		1	1
社会・国際	社会	1		1
人間	障害科学		1	1
生命環境	生物	1	1	2
	生物資源	1		1
情報理工	情報科学		2	2
	工学システム		1	1
	社会工	2		2
医	看護		1	1
芸術専門			1	1
計		6	12	18

また、前回に引き続いて推薦入試で合格した先輩たちの合格体験記を掲載します。ありのままの体験を綴ってくれた先輩からのメッセージを読んで、受験に対する決意を新たに学習に励んでください。

筑波大学合格体験記《推薦編②》

進む力

理工学群 社会工学類 石田 舞 さん

私は受験を乗り越えるにあたって、本当にたくさんの人に支えられてきました。その中の一人である先輩の、「少しでも力になりたいから」というお言葉が、かなり印象に残っています。今度は私が後輩の皆さんの力になればという思いのもと、合格体験記を書かせていただきたいと思います。

進路決定

私が筑波大学を志望校に決めたのは高2の夏でした。将来の夢や大学で学びたいことが決まっていなかった私は、その決まらなさをゆえに社会工学という文理融合型の幅のありそうな学問に興味を持っていました。ただ、そのような漠然とした興味の持ち方に不安を持った私は、

その学問についてより深く調べ、知っていくことで、自分が納得できるような魅力を見つけることができ、心からその学問に惹かれるようになりました。また、推薦入試に関しては、志望校に入れるチャンスが増えることと、自分の進路と向き合えること、そして、最後には直感を信じて、受けることを決めました。

推薦対策

夏休みに1年分の過去問を解き、本格的な対策は10月中旬から始めました。そこから当日までは、ほぼ毎日のように放課後には推薦関連の予定が入ってくる感じです。社会工学類の場合、小論文、数学、英語、面接など幅広い分野の対策が必要となるため、それぞれの対策に費やす時間配分と日程管理はスケジュール帳等を使って徹底しました。また、多様な視点からの意見が欲しかったので、自分の担当の先生以外にもご指導をお願いしに行きました。当然、本番を意識したシミュレーションは何度も行いました。

(小論文)

約1週間に1年度分のペースで合計6年度分解きました。私は国語科の先生からお借りした「現代を知る」というテキストで最低限の知識をつけ、特に経済がからんでくる分野の学習に力を入れました。また、ある程度外的を外すことなく書けるようになってきた段階で、だんだんと時間を意識するようになっていきました。数学に関しては数Ⅲの教科書レベルの微分を完璧にしました。

(面接)

主に志望理由の作成と応答の仕方についてご指導いただきました。私の場合、自分の将来の夢がしっかりと定めることができずにいたことや、興味のある学問分野の抽象度が少し高めであることが原因で、自分の言いたいことを上手くまとめることができませんでした。どれだけ考えても分からない夢を、ひたすら自分で探し続けたところで、見つけられるわけがありません。そこで私は自分の夢を定めていくために、先生、先輩、親、友人といった頼れそうな人すべてにアドバイスを求めにいき、相談に乗ってもらいました。そうするうちに、少しずつですが、「自分が何をやりたいか」について決めていくことができました。また、実際の面接では自分の発する言葉一つ一つに責任を持たなくてははいけません。そこで、私は自分が話す予定の原稿に関しては、すべての内容に関してネット等の情報を利用しながら根拠づけを行って行きました。予測が難しい質問の対策としては、先生や友人との普段の会話の中で言葉づかいや発言の内容の整合性などを意識しながら話を進めることで、応答力を鍛えていきました。さらに、1か月前からはブラウザのボタンを一番上までしめて過ごし、少しでも本番と同じ状況に近づけました。

推薦を終えて

私は推薦入試を通じて多くのものを手に入れることができました。経験を重ねることで得られる力を私は勝手に「人間力」と呼んでいるのですが、今回自分の人間力が大きく上がったのを感じています。予定を管理する力や情報を集める力、意見を伝える力や気持ちを立て直す力など、実に多くの能力を磨いていくことができました。中でも自分が最も大きく向上したと思うのは、進む力です。自分が苦しく、今にも心が折れてしまいそうな時、周りにはたくさん、私のことを支え、頼ることができる人達がいました。そのような人たちがいてくれたからこそ自分は前に進んでいくことができました。ある意味、頼る力と言えるかもしれません。支えてくれた全ての人への感謝の気持ちを忘れずに、これからの自分の道を進んでいきたいと思っています。

【裏面に続く】

後輩たちへメッセージ

私は推薦を受けるにあたり、いくつもの選択と決断を重ねてきました。推薦という道を選ぶことで、捨てなければならない道もありました。時には自分の選択を強く後悔する時もありました。自分の選択が正しかったかどうかなんて今でも私は分かりません。ただ、自分の道から逃げなかった私には「良い選択」ができたという自信があります。皆さんも、これから進路を決めていくにあたっては、何度も岐路に立たされるでしょう。その時はぜひ、悩むことを恐れずに本気で考えてみてください。自分だけで行き詰まった時はどんどん周りの人に助けを求めにいきましょう。一生懸命なあなたを周りは必ず支えてくれます。そのような人々に感謝しながら、自分を信じて進んでいってください。応援しています。

合格体験記

人文・文化学群 比較文化学類 直井 花奈 さん

こんにちは。合格体験記を書かせていただくことになり、光栄に思っています。拙い文章ですが、皆さんのお役に立てるように頑張るので、お付き合いいただけると嬉しいです。

○進路決定について

私は高校に入学した時点で、漠然と推薦入学に憧れていました。とりあえず早く受験を終わらせたかった面もあります（苦笑）…後輩の皆さんは、こうならないようにしっかり考えて志望校を決定してくださいね。

○1・2年生

毎日、朝1時間と放課後2時間くらいは学校で勉強していました。宿題とテスト勉強くらいで、特別なことはしていなかったです。代わりに推薦に向けて、ということで、大学の教授の本を読んだりしていました。それから、「何かアピールポイントを作りたいな」、と思って、県が主催する国連グローバルセミナーに参加してみたり、アメリカにホームステイしに行ったりしました。あと、部活のディベートの大会も頑張りました。

探究活動では、推薦の時に本気さをアピールするために大学でやりたいことに近い内容を探究しました。2つやりました。

○3年生

5月から受験体制に入りました。朝は7時30分から放課後は10時まで、勉強しました。推薦の勉強が始まってからは、一般の勉強が疎かになるだろうと思っていたので、周りより早く受験対策を始めました。

夏休みは毎日12時間を目安にやりました。

推薦で決まらなかったことを考えて、とりあえず筑波大志望の人の中で1位を取り続けておこうと思って勉強していました。私立の入試や、センターの傾斜配点を考えて国、英、歴の3教科を重点的にやりました。

小野瀬先生のReading Rallyは皆勤しました。英文のチョイスが面白いし、実践的なのでおすすめです。

○推薦対策（一番大切なのは体調管理だと思うよ！）

（志望理由）

夏休みに書き始めました。初めて書いたときには「勉強したくないし、推薦でいいやって気持ちが出ている」と言われてしまい……、「バレた！」と思ってひやひやしました。

自分が今まで何をやってきて、何を感じたのか・何を学び・どう将来に生かしたいのか・いろいろと考える良い機会になりました。中島先生、菅原先生にお世話になり、提出締め切りの日に何とか書きあがりました。

（小論文対策）

比較文化学類では、英語と国語の小論文が出ます。オープンキャンパスに行ったときに、英語に、今年から英作文が追加されると言われました。

国語は鈴木先生にご指導いただきました。最初は読みにくく、論理が飛躍しがちな文章しか書けませんでした。先生方のアドバイスのおかげでどうにか形になっていきました。読みやすい文章のコツは、1文を短く切ることです！だいたい原稿用紙150枚分書きました。

英語は寺田先生にご指導いただきました。最初は英文は読めても、訳が雑になってしまいがちでした。丁寧なご指導のおかげで、少しずつ綺麗な和訳になっていきました。私は、英文の中で重要なポイントを全てメモしてから和訳をするようにしていました。過去問8年分解きました。原稿用紙50枚以上にはなったと思います。

試験は時間との戦いになると思います。私は、センター試験の国語と英語は両方とも20分は時間が余るくらい、解くスピードに自信がりましたが、それでも下書きをして文を書くとは時間はギリギリになってしまいます。常に時計を気にしていなければ危ないです。

（面接対策）

比較文化学類ではグループ面接です。最初に軽く志望理由について質問があり、そのあと30分間1つのテーマについてグループで話し合います。菅原先生には日本語で、秋山先生には英語で、ご指導いただきました。グループ面接のテーマは毎回バラバラです。

どのようなテーマが出てもいいように朝日新聞の時事ワード集を見たり、NHKのクローズアップ現代を見たりしていました。

試験当日は、背筋を正すこと、胸を張ること、目を合わせること、ゆっくり話すこと、などを意識しました。

○試験当日

1日目はとてつもなく怖かったです。シャープペンを持つ手が震えて、字が書きにくかったです。休み時間は黙想して精神を落ち着けてました。マスクの内側にお気に入りのアロマオイルを垂らしてリラックスしようとしていました。

2日目は面接だけだったので、比較的落ち着いていました。周りの席の子と友達になれました。志望理由書を回し読みして、質問されそうなところを指摘しあってました。

今年から、国語、英語、面接のすべてで傾向が変わっていました。特に国語は、書く字数が倍になっていたの、絶望しました。面接は1グループの人数が減っていました。けれど、面接のメンバー全員が友達になった子だったので、比較的落ち着いて臨めました。終わった後は、グループの皆でお茶しに行きました。

○後輩たちへ

受験は、皆さんの想像以上に苦しいかもしれません。けれど、あなたが苦しい時には、あなたの周りの人も同じように苦しいはず。不安のない人なんて、そうそういません。

大丈夫です。何とかあります。疲れた時には休みながら、どうか一生に一度の受験を悔いの残らないように、最後まで戦い抜いてください。

○最後に

私が頑張ることができたのは、先生方をはじめ、周りの支えがあったからです。

本当にありがとうございました。